

公益財団法人かすがい市民文化財団広報誌

FORUM PRESS

春日井の“毎日”を、もっと楽しく！



Contents

文化や芸術の情報をお届け！

2023.1-3月

- ◆ なかえよしをインタビュー ねずみくんが伝える目に見えない大切なもの
- ◆ 生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会 《室内楽版》

VOL. 109

01 特集 なかえよしをインタビュー

ねずみくんが伝える 目に見えない大切なもの

取材・テキスト＝三宅 有

FORUM PRESSは
みんなの笑顔が
あふれる広場
のような広報誌を目指します。

04 特集

生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会《室内楽版》

- 新倉瞳インタビュー 音楽の奥深さ
- 松本大輔Presents もっと楽しむための“予習CD”

取材・テキスト＝三宅 有

08 子どもと楽しむ！ KIDS★PRESS 09

〔今回のテーマ〕食べるだけじゃない!?和菓子の楽しみ方

今号の先生＝山口栄三(和菓子司 美乃雀店長)

10 FORUM PRESS LIBRARY

かすがい市民文化財団プロデューサーのおすすめ本を紹介

11 聴き書き自分史“もの”語り 大切なもの、教えてください。

木村徹さんのクロノグラフ

取材・テキスト＝芳賀倫子(日本自分史センター相談員) / 語り手＝木村徹(カーデザイナー/元トヨタ自動車株式会社デザイン部長)

12 みんなのひろば 08

春日井市立南城中学校合唱部

13 わたしのアトリエ

第42回(令和4年度)春日井市短詩型文学祭の作品紹介
詩・一般の部 春日井市長賞 加藤 初代さん

14 公演レポート

アン・サリー&カルデミンミット～北欧のクリスマス支度～
市民レポーターが公演の様子をレポート！担当スタッフが語る“よもやまばなし”も。

15 インフォメーション

16 あのひと、春日井と

落合哲 / 春日井市道風記念館元館長・上席学芸員

春日井に何かしら縁のあるアーティストを紹介しています。

取材・テキスト＝三宅 有



© なかえよしを・上野紀子 / ポプラ社

なかえよしを・上野紀子夫妻によって

〴〵生まれた、絵本

『ねずみくんのチョッキ』。

1974年の初版から約半世紀で、

シリーズ累計470万部を超えました。

世代を超えて愛され続ける

ねずみくんの誕生秘話や

絵本に込めたメッセージとは―。

ねずみくんが伝える
目に見えない
大切なもの

なかえよしをインタビュー

今号の表紙



〔モデル〕
落合 哲

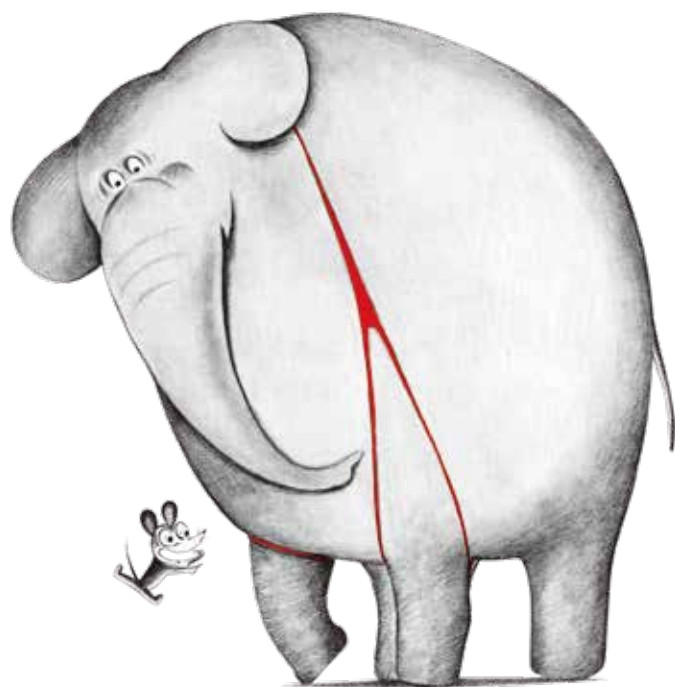
〔撮影〕
藤井 昌美 / 写真家

シンプルさは美しさに 余白は余裕に

―ねずみくん誕生のきっかけを
教えてください。

ぼくたちが初めて出した『ぞうのボタン』は、ぞうからねずみへと小さくなるお話でした。次は逆にしてみようと思った、ねずみからぞうへ大きくなるお話がねずみくんのはじまりです。昭和40年代のCMソングで「大きいことはいいことだ」と歌っていましたが、今も大きく派手に目立つことが良いように思われている気がします。ぼくは目立たない場所が落ち着きます。地味で目立たない主人公、陰でコソコソしているのが、ねずみくんなのです。

―なかえさんは、「できるだけシンプルに」「余白を大切に使っ



© なかえよしを・上野紀子 / ポプラ社

て」、ねずみくんシリーズを描かれていますね？

ぼくは広告のデザイナーをしていました。そこで、シンプルに分かりやすく相手に伝えることを学びました。レオナルド・ダ・ヴィンチはその昔、シンプルである事は究極の洗練だ、と語ったそうですが、無駄がない機能美が着飾るより美しいと思っています。ねずみくんの余白、空間にホッとした気持ちを巡らせていただければと思います。今の時代、情報が多すぎます。余白は余裕です。

―「ねずみくんの絵本」シリーズのスタート当初から、大切にしているテーマはありますか。

はじめて、サン・テグジュペリの『星の王子さま』を読んだ時に、シヨックを受けました。「大切なものは目に見えない」。これは、目に見えるものは大切ではないと言っているのです。

ぼくらは目に見えるもので物事を判断していますが、目に見えない大切なもの。それが、ぼくのテーマです。

妻が遺した

ねずみくんとともに

―二人三脚で歩んでこられた上野さんが遺されたこと、受け継いでいこうと思っていることはありますか。

上野が亡くなってからは、パソコンで新しいねずみくんの絵本を作っています。上野がいる

時は、絵が完成しても、あまりよく見ることはなかったのですが、今はじっくり絵を見ます。すると、上野がずいぶん、気持ちを入れ込んで描いていたんだなあと、今ごろ気づき、感心しています。その想いは大切にしたいと思います。

―シリーズは、現在39作を数えます。節目の40作目はどんなお話になるのでしょうか。

最初の本が『ねずみくんのチョッキ』でしたので、40作目はねずみくんが大好きなねみちゃんを主人公にした『ねみちゃんのチョッキ』ができないかと。これから作るねずみくんの絵本は、ねずみくんだけでなく、ねみちゃんとの共演で、二人の「心」のお話にできれば、と思っています。

み聞かせの魅力、大切さについて教えてください。

子どもが寝るときのお母さんの読み聞かせによって、子どもの脳が活性化して心が豊かになると聞きました。お母さんの優しい声で、子どもは安心して心地よく眠りにつけるのではないのでしょうか。ぼくは読み聞かせは得意な方ではありません。ぼくの声では、子どもたちにはストレスでしょう（笑）。

―展覧会は、まるで絵本の中に入っていく会場入り口、のぞき穴、動物たちと撮れるフォトスポットなど、ねずみくんと相棒になったようなシシかげも多いたが？

現実とは違う別世界へー。絵本の世界は、なんの疑いもなく子どもたちが入っていける世界です。展覧会場が、現実から絵本の世界へ入っていくような、そんな場所になれば最高です。

展覧会情報

誕生45周年記念

ねずみくんのチョッキ展 なかえよしを・上野紀子の世界

2023年2月17日(金)～3月19日(日) 10:00～17:00(入場は16:30まで) ※月曜休館 @文化フォーラム春日井・ギャラリー

企画: ねずみくんのチョッキ展実行委員会 特別協力: ポプラ社

ねずみくんの絵本シリーズ読み聞かせ会

2023年2月19日(日) ①14:30～②15:30～ 3月12日(日) ①14:30～②15:30～

@文化フォーラム春日井・交流アトリウム 定員20名(無料・当日先着順) 協力: 春日井市図書館



© なかえよしを・上野紀子 / ポプラ社

―過去に読み聞かせの動画を公開されたこともあります。が、読



© Hannes Heinzer

春日井で生まれた“のだめカンタービレ”の音楽会が室内楽版として帰ってきます。6人の名手が、室内楽の魅力を余すところなくお届け。出演者のお一人、チェリストの新倉瞳さんが、原作者の二ノ宮知子先生とのエピソードや室内楽の魅力などを話してくれました。

新倉瞳 インタビュー

生で聴く

『のだめカンタービレ』の音楽会 《室内楽版》で出会う

音楽の奥深さ

「新倉さんをモデルにしたチェロ奏者の女の子が原作に登場しているというのは本当ですか。」

「二ノ宮先生と今回の音楽会にも出演されるピアニストの高橋多佳子さんとの女子会に参加させていただいたのですが、それから数年が経った頃に高橋さんから「瞳ちゃん出てるよ!」と伺い本を開いたらびっくり。名前こそ違いますが演奏姿も酔っ払った姿もそっくりな(笑)チェリストが描かれていて感動しました!」

「演奏するとき、「のだめ」を意識しますか。」

お客様はシーンを思い浮かべて聴



© 二ノ宮知子 / 講談社

大好きな仲間と 最高の演奏を

「演奏者として感じる『室内楽』の魅力は?」

「ひとりで演奏するより自分以外の人とアンサンブルしているほうが好きなのです。ソロの時でも自分の中に何人かいるという気持ちで弾いています。室内楽は仲間と一緒に作る楽しさとか、その時に起きたことに

どう対応するか、というライヴ感が魅力。互いに支え合うことで、魔法がかかることもあるので、今回の音楽会、私自身、とても楽しみ

でワクワクしています。

「今回共演するメンバーとのつながりは?」

「コントラバスの加藤雄太君は同じ学校のひとつ後輩で、ほぼ同級生みたい。高橋さん、礒絵里子さん(ヴァイオリン)とは『椿三重奏団』としても、長年一緒に過ごさせて頂き本当にお世話になっています。中島麻さん(ヴァイオリン)、吉田有紀子さん(ヴィオラ)とも共演させて頂いたいています。みなさんも各々、どこかで共演されていると思いますが、この6人が揃うのは初めて。大好きな方々とのアンサンブルほど楽しいことはありません! 互いをリスペクトし、高め合える。人はひとりで生きていけないことを音楽を以て確認させられる。それこそが室内楽といえるかもしれません。」

「春日井のお客様にメッセージを。『のだめ』ファンの方には絶対、満足いただけますし、広く音楽好きの方にも楽しんでいただけたらと思います。『アイネ・クライネ・ナハト

演奏家も共感

「のだめ」の

ポジティブさとリアルさ

「『のだめカンタービレ』との出会い、思い出を教えてください。」

「自然というか、気づいたら周りの音楽仲間の間で浸透していました。私のメジャーデビューと同時期に放送されていたテレビドラマの、Sオケのみんなが演奏していて一斉に立ち上がるシーン。ものすごいエネルギーと団結感に圧倒されたことを鮮烈に覚えています。」

「プロの演奏家からみても、共感するところは多いそうですね。」

「千秋が出場した指揮者の国際コンクールで、オーボエとフルートが入れ替わるエピソードのように、厳しい業界の裏事情もリアルに描かれています。でも、二ノ宮知子先生のフィリターを通して、すべてがポジティブというか、ぶぶぶっと、笑って受け入れられる話になるんです。そんな前向きさに、頑張っている若い演奏家たちは勇気づけられています。」

「ムジーク」を、おなじみの冒頭だけでなく、全曲聴く機会なんてめったにないです。私も「のだめ」の一部となれること、そして、音の職人。たちとのアンサンブルを楽しむにしています。その楽しさは、きつと音になって皆さんのもとへ届くと思います。のだめ音楽会が、音楽の深み、へとみなさんをいざなうって、もっともっと音楽に興味を持っていただけなら嬉しいです。」



高橋 多佳子 / ピアノ
©Shinichiro Saigo



礒 絵里子 / ヴァイオリン
©FUKAYA yoshinobu:auraY2



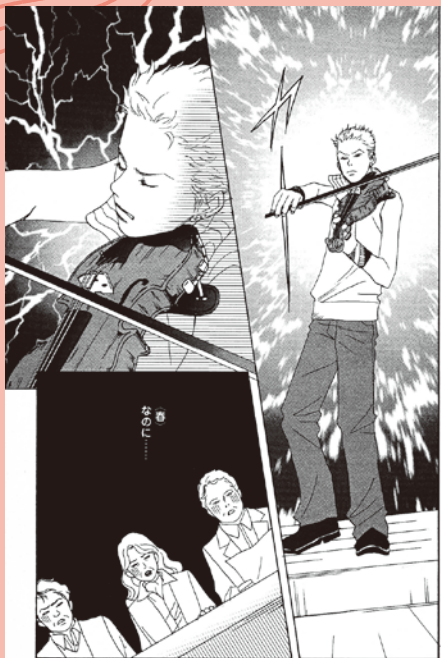
中島 麻 / ヴァイオリン
© 小野坂直之



吉田 有紀子 / ヴィオラ
© 小倉直子



加藤 雄太 / コントラバス
©Hikaru Hoshi



© ニノ宮知子 / 講談社

ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ 「春」より 第1楽章

桃ヶ丘音大時代に峰くんが試験で弾いていました。千秋が伴奏をしていましたね。本編の解説でいうところの「幸せそーな曲」。1922年生まれの大巨匠デネス・ジグモンディのヴァイオリオンは、峰くんを思わせる自由闊達、天衣無縫な演奏で、こんな幸せそうな演奏なかなかないです。ピアノは奥さん。ジグモンディは奥さんが大好きで50年もデュオをしていたんですよ。残念ながらCDは廃盤ですが、ストリーミングだと聴けるみたいです。こういう仲の良い人同士の演奏を楽しめるのも室内楽の醍醐味です！

★Beethoven - Three Sonatas for Violin and Piano (※廃盤)

モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク K.525

オーケストラ演奏が多い曲ですが、フランスのブノワ城では、千秋が室内楽版で演奏していました。室内楽版のCDには、アマデウス弦楽四重奏団とツェペリッツのコントラバスによる絶対的名盤があります。ツェペリッツは、フルトヴェングラーやカラヤンの下のベルリン・フィルで活躍した伝説的コントラバス奏者。ベルリン・フィルのコンマスとして「のだめ」に登場するカイ・ドゥーンと、同じような存在感を持った大演奏家です。

★モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク、音楽の冗談、ディヴェルティメント K.136-K.138〈タワーレコード限定〉アマデウス弦楽四重奏団、ライナー・ツェペリッツ

© ニノ宮知子 / 講談社

2023.2.19 (日) 15:00開演
生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会
室内楽版 @春日井市民会館

助成 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会



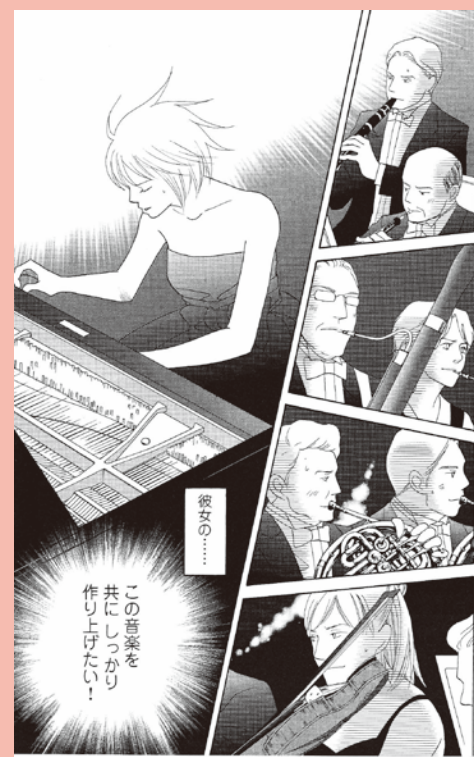
松本大輔 まつもと だいすけ

日本最大のクラシック専門CDショップ「アリアCD」店長。名フィルの月刊プログラム、新聞・雑誌への寄稿、「クラシック・スナイパー」（青弓社）では漫画を連載するほか、クラシック講座を全国各地で開くなど、マルチに活躍中。



“クラシックの伝道師”
松本大輔
PRESENTS

春日井市内でクラシック専門のCDショップを経営し、講演会などでもクラシック音楽の魅力を伝える松本大輔さん。「6人の『超本格的アーティスト』」による室内楽版を聴けるなんて、のだめ音楽会発祥の地・春日井ならではの！と、今回のプログラムを絶賛。「春日井公演の前に、あらためてコミックを読み返しました」という松本さんが、今回の音楽会をより楽しむための「予習CD」を紹介してくれました。



© ニノ宮知子 / 講談社

ショパン ピアノ協奏曲第1番

のだめがロンドンでデビューした曲…というか、「のだめ」中、最大の見せ場で登場する曲。演奏シーンだけで40ページ近い。コミックはオーケストラ版ですが、ショパンが生きていた頃はサロンなどで演奏されることが多く、今回のコンサートでは、当時の演奏が再現されるかもしれません。CDは、デイヴィッド・ライヴリーのピアノによる室内楽版。楽器も19世紀当時のものです。パリで活躍する人ですが、とても格好良くて千秋の先生のシュトレゼマンに似てるんです。

★ショパン：ピアノ協奏曲集（弦楽五重奏伴奏版）
ピアノ協奏曲第2番 短調 op.21、ピアノ協奏曲第1番 短調 op.11 デイヴィッド・ライヴリー（ピアノ / 1836年製エラール）、カンピーニ＝バリ弦楽四重奏団、トマ・ド・ピエルフ（コントラバス）

生で聴く
“のだめカンタービレ”の音楽会《室内楽版》
をもっと楽しむために

子どもと楽しむ!

KIDS★PRESS 09

／ 今回のテーマ ／

食べるだけじゃない!?
和菓子の楽しみ方

その形や色合いなどで四季折々の季節感や風情を表す和菓子。
練り切りなどで作った生菓子は芸術作品のようで、
「食べてしまうのがもったいない」と思う人もいるでしょう。
見た目や名前の由来、そこに込められた思いに触れると、
より味わいが深まります。

今号の先生

山口栄三

春日井市在住
御菓子司 美乃雀 店長



名前の由来を知る

「まんじゅう」「ようかん」という種類の名前とは別に、その和菓子だけに付けられた名前を「菓銘」といいます。俳句や短歌、地名やその地域の歴史などから付けられます。菓銘の由来を調べたり、ゆかりの土地を訪れてみるのも、おもしろいかもしれません。



春日井娘

高蔵寺和つか饅頭
グルッポ



高森山

グルッポ

そろり

はじまりは縄文時代

「縄文時代、木の実をすりつぶし、水でアク抜きして丸めたもの」が菓子のはじまりといわれています。その後、大陸文化を取り入れ、江戸～明治時代に砂糖が使われるようになり、おいしくて見た目も美しい和菓子が生み出されました。



歴史上の人物が好んだ 和菓子にふれる

昔から愛されてきた和菓子は、みなさんが知っている歴史上の人物たちも食べていました。南蛮文化を積極的に取り入れた織田信長は「金平糖」を好んでいたそうです。新しい日本を作ろうと奔走した坂本龍馬は新婚旅行先の登山に「カステラ」を持参したとか…。黄門さまのモデルとなった徳川光圀は「福寿饅頭」、松尾芭蕉は「ところてん」などが馴染み深いようです。



織田信長
「金平糖」

坂本龍馬
「カステラ」



西日本
の桜餅



東日本
の桜餅

食材や季節による 違いを味わう

「桜餅」は西日本と東日本で形や素材が違います。西日本は、もち米を蒸してから干して粗く挽いた道明寺粉の生地で餡を覆い、東日本では小麦粉を使った生地で餡を包みます。春に咲く牡丹の花に由来する「ぼたもち」と、秋の萩の花に似せた「おはぎ」の様に、季節によって名前が変わる和菓子もあります。

時の移ろいをめぐる

ひとつのテーマで様々な和菓子が作られます。例えば“桜”から着想して、写真のような和菓子が出来上がりました。(右から順に)「つぼみ」「花」「葉桜」をイメージしています。“春”そのものをひとつで表す三色団子は、色や順番が決まっています。一般的に、真ん中の白は「雪」、その下の緑は春待つ「新芽」、桃色は「花びら」の色だといわれています。

“桜”の和菓子



葉桜

つぼみ

花

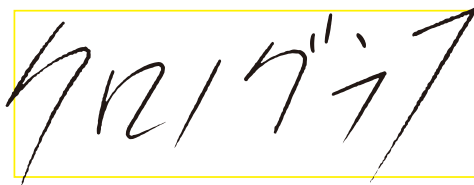
花びら

雪

新芽



30
に



取材・テキスト
芳賀 倫子（日本自分史センター相談員）

語り手
木村 徹
（カーデザイナー／元トヨタ自動車株式会社デザイン部長
木村デザイン研究所CDO）

聴き書き自分史とは？
語り手の話に耳を傾け、本人に代わって書く自分史です。

芳賀先生の自分史相談

無料 要予約



毎週火曜日 13:00～17:00
文化フォーラム春日井にて

20代の終わり、米国のデザイン研究所での経験は衝撃でした。実物大のラフなデザイン画を基に紙や木材、アルミ材などで簡単に模型を作ってしまう。イメージと違えば、「あーだ、こーだ」と意見を交わしながら軽快に創作。そんな雰囲気がデザインの可能性を広げると、大いに刺激されました。これは、生涯のデザインマネジメント、トヨタ本社でのデザイン開発にも大きな影響をもたらしました。カーナEDのデザインやスポーティーで高級感漂う腕時計のクロノグラフをアルテッツァのメーターにする着想など。これは車好きの間で評判となり、メーターを模した腕時計が作られました。

次代を担う学生たちには、「今日の常識は明日の非常識。明日の常識は今日の非常識」と伝えています。コロナ禍も悪いだけではなく、インド北部では生産活動が止まったことで空気が澄んでヒマラヤの山ひだがくっきり見えるようになった、ということも。物事の捉え方を変えると、色々気づくことがあるんですね。

木村徹さんが講師！ みんなの美術部(後期)……………
「みんなの夢を形にする! カーデザインの世界」
2023.2.25(土)10:00～12:30@文化フォーラム春日井
詳しくはコチラ▶



FORUM PRESS LIBRARY

フォーラムプレス
ライブラリー

文化フォーラム春日井で読めます!!

かすが市民文化財団プロデューサーのおススメ本を紹介

プロデューサー小松 淳子の

このマンガを読め!!



銀太郎さん
お頼み申す

着物美人を目指して…!

着物…日本人である以上、ささっと着られたら素敵だなと思いますが、着付けが出来ない、何を着ていいかわからない、間違った着方をして「着物警察」に目を付けられたら…なんて心配事だらけで、気軽に着られないものでもありますよね。着物に関する知識ゼロの主人公・岩下さとりが、バイト先に現れた着物美人の銀太郎（芸妓時代の名前）に憧れて、彼女の仕事のお供をさせていただくことに。そこで様々な着物を着て日本の文化に触れていく…のですが。さとりが「絵羽」と聞いて「エヴァ?（エヴァンゲリオン）」と思ったり、「紗」を「シャア」と聞き間違えたり。一人着付けで悪戦苦闘する場面などは、私も着物を着る機会がありますが、もう、共感しかない（泣）。着物と日本文化が学べる期待大な作品です。



東村アキコ／集英社

ふだん記



全国から自分史センターに
寄せられる冊子

プロデューサー山川 愛の

自分史「この一冊」



自分史のルーツ「ふだん^ぎ記」

昭和50年に色川大吉さんが「自分史」という言葉を世に放つ前のこと。彼は「文を書くことを万人にすすめた」橋本義夫さんの活動に興味を持っていました。その橋本さんは15名の執筆を元に「ふだんぎ」という冊子を昭和43年に創刊、印刷は謄写刷、50部の発刊。現在のような印刷技術が無い中、労苦の末に生み出された本だったと想像できます。その「ふだんぎ」活動は、今なお脈々と受け継がれ、全国に存在しているのです。日本自分史センターには各地域の「ふだん記」冊子が年数回、送られてきます。どの地域の冊子にも、橋本さんの言葉「独立するが孤立しない」の記載が。高齢化やコロナ禍で「今回をもって最終版です」という連絡が届くのは切ないですが、橋本さんの精神は伝えていきたいと思う今日この頃です。

庭の草取りをした
ジョウビタキがチッチッと呟いて寄って来た
「変わらない? 一人暮らしは慣れたかい」
「うん まあね エサはあるかね?」
ご飯粒をまいたが忙しそうに頭を振りながら行ってしまった
黒い帽子に茶色のコートが似合っていた

畑の土起こしをした
セキレイが耕した土をつつきながら寄って来た

「変わらない? 耕運機うまくなったね」
「うん まあね エサはあるかな?」
長い尻尾を揺らしながらツツーと仲間のところへ行ってしまった
この世は小さな生きもので溢れている

一人の夕餉は何にしよう
小さめの大根とほうれん草を抜いて井戸水で洗っていると
電線にカラスが一羽とまってじっとこちらを見ていた
「いつまでそこにいるの? みんな帰ったよ」
カラスは一声鳴いて夕日に向かって飛んで行った たくましくみえた
この世には一人ぼっちの生きものがいる

えらく若い夫の写真の前で、テレビのニュースを見ながら夕食をとる
今日も世界の紛争を伝えている
この世には人と人との争いが溢れている

北へ帰った鳥たちよ
大陸では砲弾の音が聞こえるか?
来年来るときは教えておくれ
広大な地が静かになっていったって
人が人らしく 小さな生きものが安穩に生きていけているって

夜 外に出てみた
白い月が少し雲に隠れていた



第42回(令和4年度) 春日井市短詩型文学祭の作品紹介



加藤 初代

かとう はつよ

75歳。
詩・一般の部で市長賞。

この2年の間に夫と姑をおくりました。一人になって庭の手入れや田畑の管理をしていると、“自然”というものに励まされることが多くあります。土や緑に触れ、舞い来る鳥たちと語らい、穏やかで健やかに暮らしていける日々への感謝を綴りました。知人の受賞をきっかけに短詩型文学祭を知り、見よう見まねでチャレンジしてきました。なかなか思うに任せませんが、短い言葉で表現する潔さ、その先に広がる想像の世界に短詩型文学の魅力を感じています。



お知らせ

第42回 無料配布
春日井市短詩型文学祭
作品集

※数には限りがあります。
なくなり次第、配布終了となります。

各部門の入選作品を掲載した作品集を無料配布しています。限られた言葉で自然の美しさや心震える体験を紡ぐ短詩型文学の世界をお楽しみください。

配布場所 文化フォーラム春日井 / 市役所情報コーナー
春日井市東部市民センター / 各ふれあいセンター / 各公民館

文化フォーラム春日井や
春日井市民会館は、
春日井の文化をつむぐ
「みんなのひろば」です。
そんな「みんなのひろば」に
集う人々を紹介します!

＼ 楽しさを歌声にのせて /

春日井市立南城中学校

合唱部

KASUGAI
MINAMISHIRO
JUNIOR HIGH SCHOOL
CHORUS CLUB

ENJOY! FORUM

みんなの ひろば 08



全員で集中して取り組む発声練習

仲間と奏でる清らかなハーモニーは
友情の証

「私たちの合唱部は少人数ですが、チームワークの良さが自慢です。何でも話し合えて、もう一つの家族のように思っています」と、代表して2年生の恩田光羽(こう)さんが紹介してくれました。平日の週3日、土曜日の午前が活動時間。互いの気持ちを理解するため、に担当外のパートも練習しています。「気持ちを合

わせて、一つのものを作り上げることは難しいけれど、みんなで達成感を共有できることは合唱の魅力」だと感じています。

8人は全員、中学から合唱を始めましたが、入部以来、コロナの影響で録音や動画での大会出場が多く、人前での発表の場を求めています。そんななかで、決まったアトリウム音楽祭出場。「やった! って盛り上がりました。リズムやテンポ、強弱など技術的なことも大切ですが、歌に込められた様々な感情を表現したいと思っています。いろいろな世代の方に、『一緒に歌いたい』と思ってもらえるような合唱ができれば最高です」と意気込んでいます。

お知らせ

春日井で生まれる音楽たち みんなの発表会 アトリウム音楽祭

市内外で活動しているグループ・団体が日ごろの練習の成果を発表する音楽の祭典。コーラス、ギター、オカリナや大正琴などで、多彩な音楽を奏でます。様々な世代の音楽仲間が集まり、互いの演奏に耳を傾ける交流の場としても人気を集めています。

2022年度 アトリウム音楽祭【春】
2023年3月18日(土)・19日(日)
@文化フォーラム春日井・交流アトリウム



南城中
合唱部
出演!!



西村まさ彦の音楽劇 「ピーターとオオカミ」

世界中で愛されている音楽物語を、俳優の西村まさ彦によるドラマリーディングで上演します。様々な楽器を操る大嶋吾郎と副田整歩の“ふたりオーケストラ”にもご注目ください。

2023.3.5(日) 16:00~

@春日井市民会館



©2022「20歳のソウル」製作委員会

かすがい日曜シネマ 「20歳のソウル」

市立船橋高等学校吹奏楽部では、野球部を勝利へ導く応援曲として『市船soul』を代々演奏しています。この楽曲を作曲した部員が駆け抜けた、わずか20年の生涯を描く映画です。仲間と音楽を愛したひとりの青年の感動の実話。

2023.3.12(日) ①10:15~②13:30~

@文化フォーラム春日井・視聴覚ホール



親子のための 初めての音楽会 vol.9

小さなお子様が泣いちゃっても声を出してもOK! コンサートデビューに最適な音楽会です。当財団の第3期登録アーティストで、幅広いジャンルの演奏で好評のジャンブル・カルテットが出演。親子で音楽に親しむひと時をお届けします。

2023.3.16(木)

①10:00~10:30 ②11:30~12:00

@文化フォーラム春日井・交流アトリウム



君島大空(独奏)ライブ

ギタリスト、シンガーソングライターとして大注目のアーティスト、君島大空の単独ソロ公演です。唯一無二の歌声で独創的な世界観を創り出す君島大空の魅力を、音響効果に優れたギャラリー空間でお届けします。2/25(土)よりチケット一般発売開始。

2023.4.22(土) 17:00~

@文化フォーラム春日井・ギャラリー



ダ・カーポ デビュー50周年 コンサート

名曲「結婚するって本当ですか」や「野に咲く花のように」で知られるダ・カーポがデビュー50周年を迎えます。フルート奏者である娘さんを含む家族3人で、心温まる優しいステージをお届けします。ピアノは渡辺雅二、ギターは大平重成です。2/18(土)よりチケット一般発売開始。

2023.4.23(日) 14:00~

@春日井市東部市民センター



豪華競演! 特撰落語名人会

東西の人気落語家の高座を春日井市民会館で堪能できます。2/12(日)より、文化フォーラム春日井2階・チケットカウンターにてチケット発売。

2023.5.7(日)

①13:30~②17:00~

@春日井市民会館

[出演] 三遊亭小遊三、桂文珍、林家たい平
[料金] 一般4,500円、PiPi会員4,050円
(税込、全席指定、未就学児入場不可)
[主催] エイフル企画 0120-241-052

読者アンケート

今回の「広報誌FORUM PRESS」はいかがでしたか? 感想やご意見をお寄せください。回答はQRコードから。抽選でプレゼントもお届けします。回答の締め切り: 2023.2.20(月)



今回のプレゼント

西村まさ彦の音楽劇「ピーターとオオカミ」(3/5(日) 16:00~@春日井市民会館)のチケットを2組4名様にプレゼントします! プレゼント不要の方も、ご回答いただけるようになっております。

編集後記

前号関連企画ワークショップで作られたランタンがスカイフォーラムを彩りました。参加者の佐方さん兄妹はWS後にも来場して作品とパチリ! 読む・作る・訪れる...たくさん楽しんでいただいで、スタッフ一同感謝です。(三宅)



公演レポート

行ってきました!

アン・サリー& カルデミンミット 〜北欧のクリスマス支度〜

2022年12月3日(土)
@春日井市東部市民センター



今回の
担当レポーター
みと満寿美

極上のクリスマスプレゼント

アン・サリーさんのことをNHK朝ドラ「おかえりモネ」の挿入歌を歌っていた人として馴染みの方もいるかもしれません。歌声は高音がどこまでも透き通ったままたまむことなく伸びていきます。音域はどこまであるのでしょうか。何気ない日常を歌った「あたらしい朝」「かぞくのじかん」も素敵で、「蘇州夜曲」の哀愁を帯びた歌声も魅力的。ギタリストの小池龍平さんとのトークの掛け合いも楽しかった。

フィンランドの女性フォークカルテット・カルデミンミットも高い歌声がチャイミング。フィンランド伝統の楽器・カンテレは、木製オブジェ?と思う素敵なお形です。日本の琴にも似た音色が歌声と美しく共鳴していました。フィンランド語はわかりませんが、柔らかな響きは、「歌で旅する」気分にしてくれました。

こんなに幸せな気持ちになれるなら、友人たちも誘ってみんなで感動を分かち合いたいと思うほど、素晴らしい時間でした。

市民レポーターが
かすがい市民文化財団の
アレコレを紹介!

REPORT
NUMBER 466



他のレポートは
コチラ!

アン・サリー&カルデミンミット
〜北欧のクリスマス支度〜
担当

三上俊希
みかみとしき



よもやま
ばなし

待ちに待ったアンさんとカルデミンミットの共演。コロナ禍のため、2年越しでようやく開催できることになりました。優しく澄みきった歌声の両者ですが、リハーサルでは、穏やかな雰囲気になか、秘めていたエネルギーが一気に放出されるかのような凛としたパワーが溢れていました。清らかなハーモニーは本番ですらに輝きを放ち、すべてを温かく包み込むよう。ようやくみなさんに聴いてもらえた安堵感と共に、いつの間にか、自分自身も安らかな気持ちになっていました。

担当スタッフの



あの人と、春日井と

まずは自由に
鑑賞してください
その先に
深い楽しみが

落合 哲

春日井市道風記念館元館長・
上席学芸員

人の営みとともに

「春日井が『書のまち』と言われるのは、『道風さま』を誇りに思う気持ちが続いていいるからではないでしょうか」と落合哲さん。三跡の一人、小野道風を顕彰する全国でも珍しい書の美術館・春日井市道風記念館の館長を長く務め、公開が稀な書展示するなど、同館の上席学芸員となった今も道風と書の魅力を伝え続けている。

「道風展」の名で親しまれる小野道風公奉賛全国書道展覧会は春日井市制80周年の今年、第75回の記念回を迎える。昭和24年に始まった同展のきっかけとなったのは、その5年前の道風生誕1050年祭。「書家、歌人など全国の文化人の作品が寄せられ、戦時下にもかかわらず、盛大に執り行われました。道風を慕う気持ちは行政主導ではなく、地域から生まれてきたのです」。昭和11年に産声を上げた県

下児童生徒席上揮毫大会も毎年続く。「作品をみると、書風に個性が出てきたり、万国友愛（＝大阪万博）や歴史の島（＝沖縄返還）などの言葉が書かれ、書写教育と時代の変遷もたどれます。書はいつも、人と共にあったことを実感します」

“好き”から はじめよう

“線の芸術”ともいわれる書は、余白が醸し出す美しさも魅力。「ある邦楽家の方が音と音の間の静寂、音のない部分を美しく聴こえるように演奏する、と話していました。その意味では、音楽と似たところがあるかもしれません」。筆の動く速さや筆圧を感じ取れるのも特徴。「筆順があるので、どのように書かれたか、たどることができます。そして、後戻りできない潔さも書道の妙味かもしれません」

和様を作り上げた人物。当時、絶対的な存在だった空海より上手いと公言し、罰当たりと非難されても自分の道を突き進んだ。

そのエネルギーが、道風の真骨頂と言えるかも。開拓者としての道風をもっとよく知ってほしい」と書道文化のいっそうの発展を願う。そして、こう続けた。「『書く楽しさ』は、各種展覧会への出品で、『見る楽しさ』は、道風記念館に来ていただければ、お話ししますよ」

開拓者としての 道風に倣う

大学では日本史専攻。数多くの古文書を読んだが、書の美しさではなく、内容だけに目を向

「『何が書かれているかわからない』とか、『上手く見るコツは？』などと、よく訊かれます。そんなときは『ひとつもらえらしたしたら、どれがいいですか。音楽や絵と同じで、『好き』とか『家に飾りたい』という視点で見ると自分の好みが変わりますよ』と答えます。まず自由に楽しんで、少しずつ様々な見方や理論、深い楽しみを知っていたら、思えます。今見られる古筆は、何度も時代のふりいにかかれて残ってきたもの。生活習慣や価値観が変わっても、大切に保存してきた。人心を捉え続ける優れた作品といえるでしょう」



けていた。書と本格的に対峙するのは、記念館へ赴任してから。「数多の絶妙な書に触れる機会をいただいています。が、私自身、書は書けないんです。子どもの頃、教室へ通っていた程度。何と言っても、先生方の素晴らしい作品を目の当たりにしたら、恥ずかしくて書けるわけないでしょ（笑）」

「道風は蛙と柳の寓話などでも知られていますが、何と云っても中国の書の真似から脱却して



落合 哲
Ochiai Satoshi

名古屋市出身。小学4年生から春日井市へ。名古屋大学文学部で日本史を学び、古文書を数多く調査、解説。春日井市役所入庁後は生活課などを経て、昭和60年文化振興課配属となり、道風記念館へ。平成19年同館館長。平成31年より同館上席学芸員。

こんなところでも “書のまち春日井”PR

落合さんは、春日井市民会館で配布するコラムも執筆しています！ 毎回公演のテーマに沿った書の魅力を紹介。最新号は、のだめ音楽会（2/19）会場で手に入ります。バックナンバーは文化フォーラム春日井2階・文化情報プラザで。



「築水の森」 落合哲と、春日井と

よく妻と二人で散策します。市内最大のシデコブシ自生地で、ミズバショウなども楽しめます。鳥の鳴き声に耳を傾けたり、リスと出会うことも。リフレッシュには最高の場所です。



チケット予約・購入

3つの方法が選べます



窓口

文化フォーラム春日井2階・チケットカウンター
(休館日を除く、9:00~17:15)

春日井市東部市民センター2階・事務室
(12/29~1/3を除く、9:30~12:00、13:00~17:00)



電話

0568-85-6868 9:00~21:30

友の会PiPi専用

0568-85-6078 9:00~17:00



WEB

パソコンやスマホから、
かんたんアクセス

予約

www.kasugai-bunka.jp

にアクセス。

※事前のWeb会員登録(無料)が必要です。

※PiPi会員はIDとパスワードでログインできます。

支払

- 文化フォーラム春日井2階・チケットカウンター
- 春日井市東部市民センター2階・事務室
- セブン-イレブン(※手数料あり)
- クレジットカード決済

発券

- 文化フォーラム春日井2階・チケットカウンター
- 春日井市東部市民センター2階・事務室
- セブン-イレブン(※手数料あり)
- 配送(※手数料あり)

学生の特券

厳選された幅広いジャンルの公演や展覧会を、
小中高生に低価格で楽しんでもいただけるサポ-
ト制度。詳細は文化財団のホームページへ。



文化フォーラム春日井 春日井市民会館

公益財団法人かすがい市民文化財団

TEL:0568-85-6868

〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44

FOLLOW US

かすがい市民文化財団の公式アカウントです。



@kasugai_bunka



@477kdncp

[休館日]

月曜日(祝休日の場合は翌平日)

12/29~1/3

[かすがい市民文化財団HP]

www.kasugai-bunka.jp



ACCESS 交通のご案内

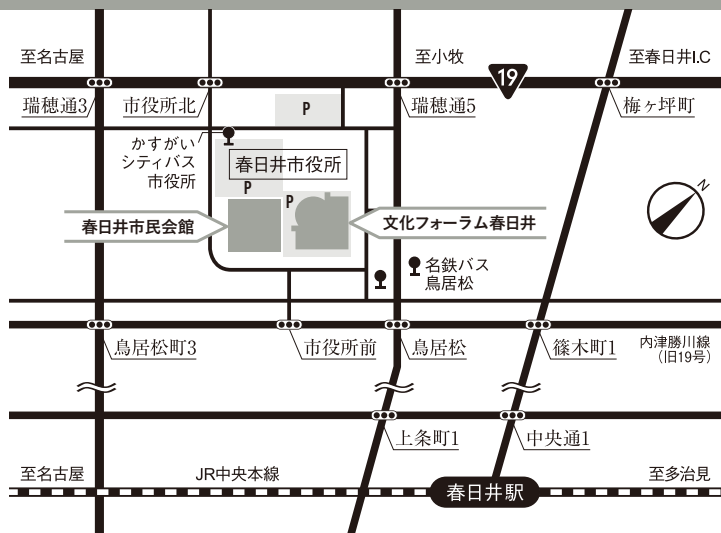
JR中央本線「春日井駅」北口より

- ・名鉄バス「鳥居松」下車すぐ
- ・徒歩20分
- ・無料レンタサイクル5分(日・祝休み)

かすがいシティバスでお越しの方

- ・「市役所」下車すぐ

駐車場は混雑が予想されます。
なるべく公共交通機関や
乗合せをご利用ください。



新型コロナウイルス感染症の感染状況によって
イベント内容が変更になる場合があります。

最新情報はかすがい市民文化財団のホームページでご確認ください。



公益財団法人

かすがい市民文化財団